

第1号様式（一部公開）

平成22年5月30日

（あて先）

財団法人名古屋都市整備公社理事長



申請者

所在地	
公開 名称	錦二丁目まちづくり連絡協議会
代表者	

まちづくり活動助成申請書

当団体のまちづくり活動について、名古屋都市センターまちづくり活動助成金交付要綱による助成を受けたいので、下記のとおり申請します。

記

1 助成を受けようとする部門（該当部門を○で囲んで下さい）

- ・ 地域“魅力”アップ部門
- ・ “はじめの一步”部門

2 団体の活動について 公開

審査基準⑤ 活動実績 と主体性	・ 提案内容につながる地域での活動実績を有しているか （団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。） ・ 具体的にどんな熱意を注いでいるか
<p>※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。 この場合、公正を期するため、A4判3枚（両面）までを限度とさせていただきます。</p> <p>団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。</p> <p>●活動目的： 住民が住む理想のまちを実現するために、仲間が交流・連携し、住民・行政・専門家のパートナーシップにより錦二丁目全体として、より良いまちを育てゆくこと</p> <p>●調査、計画づくり、提案の実績： 平成18年、まちづくり憲章の作成－錦二丁目地区住民の想いとまちとしての規則を考えるにあたり、地域内外から多くの意見を集め、討議、検討し錦二丁目全体のまちづくり憲章を作った。平成20年、まちづくりマスタープランたたき台を作成。平成21年、マスタープランづくりを進め、地区住民地権者へまちづくり構想を基に合意形成を進めている。</p> <p>●県、市区町村から補助金を受けた活動の実績 直接の補助ではないが、平成16-18年、名古屋都市センターのまちづくり活動特別助成金の交付を受けた実績あり。</p> <p>●その他の活動実績 会報の発行 年6,7回のまちのデザイン塾・しゃべり場・意見交換会の開催（平成17年より計28回）★特に、地元パネリストによる意見交換会に力を入れている（資料別添）</p>	

まちづくり活動助成（地域“魅力”アップ部門）“はじめの一步”部門

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	錦二丁目 グリーン ヒューマン プロジェクト ～ 都心に生命のサンカを響かせよう		
団体名	錦二丁目まちづくり連絡協議会		
提案の活動を行う地域	名古屋市中区錦二丁目地区		
提案の内容	<p>本地区は名古屋駅と栄の間に位置する古くからの名古屋の都心地区であり、戦後日本三大繊維問屋街のひとつとして発展してきたが、産業衰退の変化と同時に繊維業を中心としたまちの力は衰退に向かっている。</p> <p>一方2000年のシャッターペイントにはじまり、2004年錦二丁目まちづくり連絡協議会の発足、2008年まちの会所オープン、2009年からのマスタープラン策定開始などの地域主導の都心地区再生の動きがおこっている。私から始まるまちづくりの動きもあり、例えば、地元若手経営者や、花と緑を育む活動を地元経営者や社員一丸となってまちの清掃をする企業が存在する。</p> <p>錦二丁目地区は、繊維業の衰退と共に近年駐車場が増加し、栄・名駅地区の未利用地が8%に対し、12%にもおよんでおり、殺伐とした雰囲気がある。しかし、オーナー、ディーラー、デザイナーの協働のもとにコインパーキングを緑化させる事業の成功側もみられつつある。</p> <p>このような背景と動向のもとに、地縁と志の縁でつながる人々との協働により、以下の3つの活動の柱で取組をすすめたい。</p> <p>1) 路上・コインパーキングのゴミをなくし花と緑をひろげる</p> <ul style="list-style-type: none"> — 町内会・企業等と協働して定期的に順次各通り沿いに花と緑を設置し、育成する活動を行う。 — 駐車場を花と緑でおおう。 <p>2) グリーン・ヒューマンプロジェクト立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 今ある活動を評価し、位置づける。 — まちへの貢献をまちで還元するしくみづくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・【作業をしてくれた人、企業等】【緑化駐車場を使った人】には、地区内飲食店の割引を行うなど、まちの経済を動かすことにつなげる。また花の種を配り緑化を促進する。 <p>3) グリーン・ヒューマンしゃべり場・清掃緑化イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> — 以上の諸活動の成果と問題点を地縁・志縁のメンバーが相互に評価しあい、今後の持続的活動につなぎうる可能性について語りあう。パネルディスカッション・清掃緑化イベントを開く。 <p>このように本活動は、衰退しつつある殺伐とした都心地区に、見苦しいものをなくし、地球環境と地域内外の人々にやさしさと美しさを届ける活動を通して、生命ある自然を讃歌し、かつ地縁と志縁の人々と地元企業等が楽しい活動へのゆるやかな参加によって「都心に生命のサンカを響かせる、グリーン・ヒューマン・プロジェクト」を創発したい。</p>		
活動期間	平成22年4月～平成23年3月	助成金交付申請額	500,000 円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か
--------------	--

(提案活動の必要性について上記観点から簡潔に分かり易くご記入下さい。)

※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。

1：都心に緑と花のネットを！

本地区の未利用地は栄・名駅が8%に対し、本地区は12%と高く雰囲気は殺伐としている。また、2009年11月14日、15日に行った調査【錦二丁目周辺の住民、会社経営者、就労者、地権者の72名（男性55名、女性17名）】では、次のような結果が得られた。

■「錦二丁目の緑の量」：「非常に少ない」という回答が34.2%、「少ない」という回答が46.6%を占めている。この結果から、全体の80.8%の人が緑の量が不足していると感じていることがわかった。

■「緑の問題点」

「緑を感じながら休憩できる場所が無い」という回答が64.4%、「緑の絶対量が少ない」という回答が60.3%という結果が得られた。また、「街路樹などの小さい緑が点在して寂しい印象になっている」という回答が37.0%という結果が得られた。

2：都心において「きたないをきれいに」「無機的から有機的に」の共通目標によって、まちを慈しむ担い手を広げる。

古くからの繊維問屋にベンチャー企業から世界的企業、飲食店など多様な経済形態と多様な人の混ざり合いのある場所ゆえに、多様な主体のせめぎ合いの起きている地区である。多主体間の葛藤・衝突を乗り越えるため、共通の問題意識をとりあげ協働関係にしていく必要性がある。

審査基準② 独創性	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
--------------	---

(提案活動の独創性について上記観点から簡潔に分かりやすくご記入下さい。)

1. グリーン・クリーン活動によって都心地区の住民の少なさと愛着の不在を克服する。
2. 都心地区の企業と働いている人の多さを活かして緑化・清掃活動によって企業市民活動を促す。
3. 都心地区経済活動の中に、まちの景観形成、自然の再創造、近隣住民との良好な関係などといった非物質的な要素への着眼点をひらき、「モノ・カネ・セイド」的価値観から「非物質主義的転回」へとシフトしていく実体を構築する。
4. これまでやってきた萌芽的活動をのぼし、ひろげ、地縁と志援、住民と企業が共に評価しあうシステムをつくっていくことによって、持続可能な広がりのあるコミュニティ育成のきっかけにしていくことができる。
5. 都心を居住に値する場に誘導・発展させていく下地を育成することになる。

審査基準③ 実現性	・提案内容が具体的にになっているか ・予算は妥当か (番号) = 「提案の内容」欄に同じ
時期	活動内容
平成22年4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 平成23年1月 2月 3月	(2) 近隣での清掃・美化活動の担い手調査 (1) 花・緑 設置 (町内会・青長会 と連携) (2) グリーン・ヒューマンシステム企画 (1) 種を (2) の → (2) カード発行 運営 担い手に配布 (3) グリーン・ヒューマンしゃべり場 + 清掃緑化イベント開催
審査基準④ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか (提案活動の発展性について上記観点から簡潔に分かりやすくご記入下さい。)
1. 錦二丁目まちづくりマスタープラン策定と併行して進めていくが、本活動はマスタープランのコンテンツ（提案内容）の一部のアクションを具体的におこしていくことになり、まちづくり構想提案体系の横出しであり、将来の多様なアクションを展開していくはじめての一步となる。 2. マスタープランで検討されつつある駐車場緑化等具体的メニューの応用的試行のチャンスをひらき、将来の実現性条件の検討素材をひきだす。 3. マスタープラン策定と本活動の結合により、プランニングから多面的アクションの実践・評価・方向づけへのエリア・マネジメント実践の端緒をひらくことになる。 4. マスタープランで重視している都心居住の実現にあたって、緑化と清潔な住環境形成の部分的展開は、その前提条件を整備することにつながる。 5. 本活動そのものと、地元町内会・地元企業・まちづくり関係主体の有機的連携のゆるやかなネットワークづくりは、相互に多様なコミュニケーションをはかることで創造的に内発的に都心地区を再生させる社会的力を育むことになる。	

※ 第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。

※ 用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とします。